

平成30年度第1回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成30年4月24日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介
理 事 黒田 啓史, 半場 江利子, 松本 重雄, 位高 光司, 山本 壯太,
能見 伸八郎, 木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則
事務局 阿部経営企画局次長, 長谷川担当部長, 大島担当副部長, 榎木担当副部長,
濱口経営企画課長, 石田総務担当課長, 桑原管理PFI担当課長, 北川京北病
院事務長

1 開会

2 議事

(1) 平成30年度重点目標・地方独立行政法人京都市立病院機構の組織改正について

資料1, 資料2に基づき, 森本理事長から説明

- 新設された周術期統括部について, 役割を教えてください。また, 「周術期」という名称は市民にとってなじみがないため, 分かりやすい言葉でアピールしていただきたい。
→ 周術期統括部長に手術枠の権限を与え, 効率的に手術を実施できる体制とした。また, 新たに疼痛管理科を設置することで術前から術後まで一貫して痛みを管理できる体制とした。市民の皆様にとって, 分かりやすい言葉で発信していけるよう努めていく。
- DPC入院期間Ⅱ超患者を減らす取組について, 管理する部署はあるのか。
→ 特別な部署は設置していない。入院支援センターが現在設置されているが, 入院前から退院までの流れを統括できる体制を考える必要がある。
- 働き方改革について, 取組状況など国に報告する必要はあるのか。
→ 医師をはじめとした医療職については, 近畿厚生局に負担軽減計画の進捗よく状況を提出している。
- 時間外勤務縮減へ向けての取組について具体的な対策はされているのか。
→ 時間外勤務の申告と電子カルテのログイン履歴を照らし合わせて対策している。
- 内部統制について, 統制を行う部署は独立的に設ける必要があるのではないのか。経営企画局と市立病院事務局の役割を明確にするべきである。内部統制, 監査機能を兼職とすると, チェック機能が働かないおそれがある。柔軟に対応していただきたい。
→ 担当課長制とし, 事務局内で仕事の柔軟性が取れるような組織としているが, 組織として明確化できていないところもある。他病院の傾向等見て, 組織として対応していきたい。
- 経費縮減について, 具体的な対策があれば教えてください。
→ 事務局においては, 昼休みの消灯の実施, 医局においては, 夜間一部電子カルテの電源を強制的に落とす取組を実施している。また, KESの取組も継続して実施している。

(2) 経営状況月次報告（3月）

資料3に基づき, 阿部経営企画局次長から説明

- 京北病院の病床利用率が減少している理由はあるのか。
→ はっきりとした理由はわからないが, 4月以降は平均70%以上を維持できている。

(3) 月次収支報告（2月まで）

資料4に基づき、阿部経営企画局次長から説明

- 運転資金の状況を教えていただきたい。
 - 借入金の返済が、9月と3月にある。今のままでいくと今年秋頃に短期借入れの可能性が
ある。更に収益を上げていかないといけない。
- 不測の事態が起こった場合の資金はあるのか。
 - 金融機関と事前調整を行っている。

(4) その他

- 京北病院でも親しみをもってもらうためにイメージキャラクターの活用などをしていただきたい。

3 閉会